

令和7年度

王地小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 互いの意見を認め合い、自らの考えを深められる授業の実践
- 学んだことを進んで表現し、活用できる授業の実践

校長

喜多 佳英

学力向上推進員

湯浅 和奏

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

○次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な知識や技能が身につけており、課題にまじめに取り組む児童が多い。読書や読み聞かせに好んで取り組むことができている。タブレット端末を活用したドリル学習には意欲的に取り組んでいる。 ●学習した漢字や語彙を用いて文章を書いたり、書かれている内容を正しく読み取ったりすることに課題がある。学習したことを、活用する力が十分育っていない。 ●めあてとまとめが関連付けられていない児童もいる。	・学習した基礎的・基本的な知識・技能を他の学習場面で活用することができる。 ・語彙を豊かにし、相手を意識した話し方や聞き方が、学年に応じてできる。 ・学習のめあてとまとめをノートに記録し、学びを確かめることができる。	・個に応じた課題等を用意しタイプの違う問題等に触れさせる。(タブレット端末の有効活用) ・内容の理解を進めるため、課題文等に線や丸を書き入れさせる。 ・めあてとまとめを関連付け、学習の振り返りが容易になる板書やノート指導を工夫したり、振り返りをパターン化したりする。 ・言語環境を充実させるために子ども新聞を読み取り等にご利用したり、新聞や様々な分野の本に触れられるように単元に関連付けた本を教室におくなど環境を整えたりする。 ・異学年交流や集会活動の際に聞き手を意識して話したり、聞いた感想を書いたり話したりする活動の機会を設ける。 ・複式の上学年が下学年を教えたり下学年が見習ったりするよさを活かした学習を進める。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えや意見を発表したり、友達や教師の話や意見を聞いたりすることができる児童が多い。 ●根拠を明らかにして自分の考えを述べたり、書いたりすることが苦手の児童が多い。聞いたり読んだりした中から必要な情報を取捨選択する力が十分育っていない。また、相手の意図を正しく理解しながら「聞く」ことに課題がある。	・自分の考えや意見を、根拠や理由を明確にして話したり書いたりできる。 ・相手の意図を考えながら話を聞き、それに対する自分の意見や考えを述べるができる。 ・様々な形態の文章を読み、必要な情報を得ることができる。	・普段の学習や生活において、根拠や理由を述べたり書いたりする場面を積極的に取り入れるとともに個に応じた支援を図る。 ・「聞き方名人」「話型」等の話を聞く姿勢や態度、発表の仕方や記述の型を提示する。 ・基礎学習にメモを取る機会や聴写を取り入れる。 ・自分の考えを整理して伝えるために、ホワイトボードやICT機器等を効果的に取り入れると共に話したり書いたりする機会を設け、表現力の育成を図る。 ・新聞や長文等に触れる機会を意図的に設定する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いて学習に取り組む、宿題や与えられた課題にまじめに取り組む児童が多い。 ●自分から課題を見つけ、解決に向け取り組むことに課題があり、根気強く取り組むことが苦手の児童がいる。	・自分から考え、進んで学習したり活動したりすることができる。 ・自分に応じた学習課題を見つけ、根気強く取り組むことができる。	・複式学級での学習や「めあて」から「まとめ」までの学習課程をパターン化し、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。 ・めあてに対する振り返りの時間を確保し、自分の課題を自覚したり次への意欲をもたせたりする。 ・個に応じた自主学習の内容を示して評価するとともに、手本を提示する。 ・家庭学習の手引きを利用し、保護者と共通理解を図る。 ・子どもたちが主体的に学び、自らのゴールに到達できるようICT環境や辞書・辞典などの学習支援ツールを充実させる。			

